

法政大学の
“旬”な情報が
メールで届く!

法政大学 メールマガジン

2024年新春 はじめます!!

メール会員 絶賛募集中!

4つの
特典

- 特典1 登録料・年会費無料
- 特典2 春夏秋冬の年4回
法政大学の旬な情報をお届け
- 特典3 登録者限定企画をご用意
- 特典4 【寄付者限定】募金特別号をお届け



登録方法はカンタン!

二次元
コードから



または

空メール
を送信

bm87697dr@f.bmb.jp

上記アドレスに空メールを送信後、
登録フォームURLが届きます。

みなさまのご登録をお待ちしております!

[問い合わせ先]

法政大学卒業生・後援会連携室 募金課

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1

TEL.03-3264-9807

Email: bokin@hosei.ac.jp

募金の種類や税制上の優遇措置などの情報を掲載しています。

法政 寄付

検索

<https://bokin.hosei.ac.jp/>



磯網 巴

チーム・オレンジ

長尾 美紅

VSP
(ボランティア支援プロジェクト)

鈴木 瑛士

東京メトロ飯田橋駅
ボランティア

インタビュー

人間力を育むボランティア活動

ボランティア活動は、学生にとって社会貢献や福祉等の社会における支え合いを学ぶだけではなく、
学生自身が人間的にも社会的にも成長する基盤になっています。

法政大学ではボランティアセンターを設置し、市ヶ谷キャンパスを中心に学生のボランティア活動のサポートを行っています。
市ヶ谷ボランティアセンターでは、年間200を超えるボランティアプログラムを実施し、3,500名以上の学生が参加しています。
本日は市ヶ谷ボランティアセンターで主体的に活動している3団体の代表の皆さんにボランティア活動への思いを語っていただきました。

それぞれの団体の 紹介をしてください

鈴木：「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」は2016年8月に東京メトロ青山一丁目駅で発生した、視覚障がいをお持ちの方がホームに転落して死亡された事故を受けて発足し、東京メトロと協力して飯田橋駅の見守り活動を行っている団体です。具体的には、白杖をお持ちのお客様がいらした時に、危

険なことが起きないか後ろから見守ったり、必要に応じて声かけをして一緒に駅構内をご案内したり、移動補助を行う活動をしています。

長尾：「VSP(ボランティア支援プロジェクト)」は、特定のテーマに限定せず、VSP学生スタッフが関心を持った分野のボランティア活動を、自らが企画立案し、実施する点を特長としている団体です。私自身、好奇心が旺盛で色々なことに関心があるので、

「ボランティア活動の内容を自分で企画して実現することができる」と知りとても魅力を感じて参加しました。VSPでは、メンバーの立案企画で環境・福祉・地域貢献など様々なジャンルに携わる機会を設けています。

磯網：「チーム・オレンジ」は、東日本大震災の被災地復興支援と、防災啓発の二本柱で活動している団体です。東北被災地のために私たちができることをしたいという理念で発足して、それから毎年多くの



Eiji Suzuki

すずき えいじ
鈴木 英士2022年度 東京メトロ飯田橋駅ボランティア代表
社会学部社会政策科学科3年

飯田橋駅構内で車椅子の方をサポート



活動の基礎知識や心構えを学ぶ勉強会

学生スタッフが共感して入会してくれています。私たちは実際に被災地に足を運び、避難路の整備や海岸清掃、地域の方との交流を行うとともに、より多くの方に防災意識を高めてもらうための啓発活動を企画しています。

これまでの活動について 具体的に教えてください

鈴木：飯田橋駅構内で外国人やご年配者、障がいをお持ちの方、妊娠・育児中の方など、サポートを必要とされている様々な方に対応できるようにしています。メンバー全員がサービス介助基礎研修の修了証を取得して見守り活動を行えるよう努めています。座学で活動にあたっての基礎知識や注意点、心構えを学ぶとともに、東京メトロの職員の方と一緒に駅構内を巡回するなどの実践的活動も行っています。

長尾：VSPでは、これまで日本赤十字社の方と協力しての献血企画や、野鳥保護区の清掃、富士山の森林保全活動、海岸清掃、ドッグセラピーの講座、ゴールボール選手

を招いてのバレーボールの啓発活動、など多岐にわたって企画実施してきました。また、年間を通して行う子ども食堂でのボランティアでは困窮家庭に食糧を配布するフードパントリーのお手伝いや子供たちとの交流もしています。

磯網：チーム・オレンジは被災地に自ら足を運び、震災について体験することの大切さを学び、防災啓発活動の一環として防災キャンプを実施しています。また、法政大学オリジナルグッズショップと協力して、グッズの企画・販売を行い、売上げの一部を東北に寄付する活動を行っています。これまでマスコットやステンレスボトル、筆記用具のセット、ボトルカバー、ポーチなどを作って大学祭やグッズショップ、付属校の学校説明会で販売して大変好評を得ることができています。そして防災啓発の点では、「防災かるた」をデザイン、制作してゲーム感覚であらゆる世代に防災の意識を高めてもらうイベントも実施しています。

活動の中で、努力されていることは何ですか

鈴木：例えば道案内をする際、一見すると道案内はワンパターンだと思われがちですが、実際はサポートが必要な方それぞれで対応方法が違っており、その方に合わせた最適なルートを提案する必要があります。車椅子の方には歩道橋を利用しないルート、お子様連れの方には交通量が多い所を避けたルートなど、その都度考えてご案内しています。メンバーによってサービス内容に差が出ないように、勉強会の開催や、現場でのルート確認、情報の共有などを繰り返し研鑽して、メンバー全員が同じレベルでご案内できるように努めています。

長尾：企業、NPO、行政機関の方々にご協力いただいて活動することは少なくないのですが、外部の方といっしょに活動させていただくと、もっと社会に直接関わっていく仕事したいと感じることが多くあります。ボランティアの大切さであったり、ボランティアは誰でも参加できるということを知ってもらいたいと感じています。VSP

の活動をどんどん社会に広めて、ボランティアをすることが当たり前の社会になることを目標に、頑張って取り組んでいます。

磯網：前述した「防災かるた」についてですが、いつどのような時に災害に遭うかわからない毎日の中で、実際に災害に遭った時に瞬時にどう行動すればよいのかを判断することができるよう、「防災かるた」の普及に努めています。学内だけでなく学外でも紹介させていただく機会を設けており、先日は麹町消防署に伺って子どもたちと一緒に「防災かるた」に取り組んでもらえました。このようなイベントや機会を今後も設けていきたいです。

活動の中で得たものや、 成長を感じたことはありますか

鈴木：以前ご案内した方に、複数の障がい

VSP (ボランティア支援プロジェクト)



Miku Nagao

なが おみく
長尾 美紅2022年度 VSP(ボランティア支援プロジェクト) 代表
国際文化学部国際文化科学科3年

関西大学とのコラボ企画「スボゴミ」(ゴミ拾い)



バレーボール「ゴールボール」の啓蒙活動

をお持ちの方がいらっしゃいました。ご提案しようとした一つ目、二つ目のルートが、それぞれの障がいによって通行が難しかったため、三つ目のルートをご提案することで解決することができました。その時に私たちの日々の勉強や活動が「柔軟な対応力」として実を結んだという実感を大きく得ることができました。また、2022年度の活動が評価され、東京メトロから7名ものメンバーを表彰いただき、団体全体の成長や活躍が目に見える形で現れたことが大変嬉しかったです。

長尾：VSPでは、さまざまな社会課題の解決にチャレンジできるので、知見も広がり活動のたびに人間として大きく成長できていると実感しています。私たちが行うボランティアで共通しているのは、そこでしか学べないものがあるということです。自分の目で現場を見て、何が必要なか、何をすべきなのか考えることが、ボランティアを自主的に、そして責任感を持って行う原動力になっていると思います。

磯網：被災地支援ボランティアとして、自治体やNPOの方の協力を得て実際に東北地方に足を運んでいます。震災学習で被災地の今を知るとともに、避難道の整備や海岸の清掃活動を行うことで、身をもって震災の悲惨さと、防災の大切さを感じることができました。その思いを、他の学生や身の回りの人に伝えていき、将来起きるかもしれない災害で、救えるはずの命を決してなくさないように防災啓発活動により一層力を入れていこう、という覚悟を持つこと

ことができました。

今後の活動の展望について 聞かせてください

鈴木：私たちは学生ボランティアですので、受益者のために貢献することだけではなく、私たち自身が成長することが大切だと考えています。メンバーそれぞれの成長をしっかり可視化し、かつ自分の中でしっかり振り返る機会をもっと設けていきたいです。そして、私たちの活動をもっとたくさんの方に知っていただきたいので、情報発信も強化していきたいですし、これまで積み重ねてきた知識を生かして新しい企画もできたらと思っています。

長尾：もっと社会に直接的に関わる活動を増やしていきたいです。今はメンバーが企画して法政大学の学生にアナウンスをして参加者を募っており、今後より多くの方に参加していただけるボランティア活動を「当たり前」のことにしたいです。「ボランティア」という言葉が存在するうちはそれは当たり前ではないと思います。ボランティアを意識しないでできる素敵なことを増やせる社会になったらいいなと思っています。

磯網：私たちは被災地支援と防災啓発の二本柱で活動していますが、やはり防災啓発の重要性を日々感じています。東日本大震災から十数年経って、だんだん支援体制

や、その時の記憶が風化してしまうのも懸念事項の一つです。私たち自身、防災について学ぶ機会は多いのですが、学んだことを誰かに伝えていく機会が少ないと感じています。発信する機会をもっと増やし、より多くの方に防災への意識を高めてもらい、災害で悲しい思いをする人を少しでも減らしたい、そのための活動を続けていきます。

チーム・オレンジ



Tomoe Isoami

いそみ ともえ
磯網 巴2022年度 チーム・オレンジ代表
法学部政治学科3年

被災地での海岸清掃



ゲーム感覚で防災意識を高められる「防災かるた」

from
市ヶ谷
ボランティア
センター市ヶ谷ボランティアセンター
職員 小原 拓也

ボランティアセンターは、学生・教職員がボランティア活動に関心をもち、学生スタッフが実際に活動に取り組むことを応援しています。そのために、ボランティア活動の持つ面白さや魅力の発信、活動に参加するきっかけづくりなどさまざまな取り組みを行っています。これらの取り組みが学生にとってより身近なものになるように、ボランティアセンターでは学生スタッフとともに活動しています。学生スタッフがボランティアの一步を踏み出せるような企画を立案し、地域での共同ボランティアや学内での啓発活動、ワークショップなど、年間通してさまざまな形の企画を実施しています。ボランティアセンターの詳しい活動内容をウェブサイトでご紹介していますので、ぜひご覧ください。(https://www.hosei.ac.jp/volunteer/)

法政大学では、ボランティア活動への
支援を受け入れています

皆さまからのご支援が、学生のボランティア活動を支えます。ご支援はこちらから！



チーム・オレンジが企画した
グッズはこちらからご購入
いただけます。ぜひショップを
のぞいてみてください！

